

令和7年9月29日
株式会社シーエス・ワンテン
日本アムドックス株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和7年9月29日（月）16時00分～
- ・場所 日本アムドックス株式会社 神谷町オフィス 会議室
- ・委員 審議委員総数 8名
出席審議委員数 7名

（出席委員）

委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）

議長 江口 靖二（合同会社江口靖二事務所 代表社員／
一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム 常務理事）
小柳 大輔（株式会社Interview 代表取締役）
関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）
野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
松尾 健司（株式会社ジャパンエフエムネットワーク 顧問）

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）

福田 泉（代表取締役社長）
船越 昇（業務推進本部長）
川北 桃子（編成局長）

（番組供給事業者：日本アムドックス株式会社）

梅田 昌宏（MTVジャパン代表 兼 営業部門 部門長）
関戸 美帆（チャンネルオペレーション部門 シニアディレクター）
戸田 裕介（チャンネルオペレーション部門 TAMディレクター）
河内 英理也（営業部門 セールスマネージャー）

- ・審議番組 「a n o S p e c i a l -BONE BORN BOMB-」
- ・放送日時 令和7年6月8日（日）20時30分～21時00分
- ・番組内容

令和7年6月4日に2ndフルアルバム『BONE BORN BOMB』をリリースしたa n oさんの特別番組。番組ではロングインタビューを実施。アルバムの全曲解説、制作時のエピソード、ミュージックビデオ撮影時の秘話、音楽への思いを語って頂き、アーティストとしてのa n oさんにフォーカス。音楽専門チャンネルのMTVだからこそ伝えることができる内容の番組制作を心掛けた。

・委員からの意見とMTVの回答

・委員からの意見とMTVの回答

- 編集基準については、問題となるような表現や発言はなかった。
- a n oさんのアーティストとしての考えが非常によく分かる、濃度の高い内容の番組であった。
- どういう原動力で音楽活動をされているか、ファンの方への思いなど、a n oさんのアーティストとしての姿勢が十分に伝わる内容であった。
- a n oさんのクリエイティビティにフォーカスした、コンパクトにまとまった印象を受ける良い番組であった。
- シンプルなセットで、余計な情報が視覚的に入らないことで、a n oさんの言葉がすんなり入ってきた。
- 関わっているクリエイターへの話がリスペクトを感じる語り口で好感を持てた。
- 楽曲がほとんどBGMとなっているため、番組を見た後にa n oさんの楽曲をちゃんと聞いてみたいと思える内容であった。
- a n oさんのクリエイティブな考えを聞くことで、勉強にもなり、刺激にもなる番組だと感じた。
- 楽曲の話とミュージックビデオに切り替わるテンポ感がよく、30分の番組があつという間に感じてしまう良い構成であった。
- アルバム全曲紹介という企画自体は、どのアーティストでも同じような話になることが多い懸念があるが、ミュージックビデオの話を交えることで、他媒体との差別化はできていると感じた。
- a n oさんの音楽活動を知らない視聴者に対して、もう少し楽曲を聞かせる構成の方が良いのではないかと思ったが、番組を見て頑張ろうという気持ちになった視聴者の意見を聞くことがあり、a n oさんの魅力を伝えるという趣旨から考えると、この構成での良さも感じた。
- 地上波の番組では見ることができない。a n oさんのパブリックイメージの裏にあるディープなところまで踏み込んでいけると、より視聴者の印象に残る番組になったと思う。そのためにもインタビュー番組においては、インタビュアーのスキルが重要と感じる。
- コラボレーションしているクリエイターの話の際にテロップでの説明がないため、その人のイメージが湧きにくく、そういったフォローは必要だと感じる。
- アルバムに特化した番組フォーマットは、他のアーティストでも活用できると思うが、今回このような内容の番組制作に至った経緯を知りたいと思った。
- この番組を見ることで、アーティストとしてのa n oさんに興味を持つ方が多いと思う。そういった方へもリーチできるように、より不特定多数を見てもらえるような施策があるといいと感じる。

○テキストインタビューでも読みたいと思える内容であった。紙媒体、またはWeb媒体のメディアミックスを行うことができれば、プロモーションとしてもより効果的であると思う。

(MTV側)

- ・この番組においては、ディレクターがインタビュアーを担当している。今後、インタビュー番組を制作する際に、アーティストのディープな面をより引き出せるインタビュアーを別で立てることも検討していきたい。
- ・テロップフォローが足りていない点はあったと思う。今後の番組制作において、改善すべきポイントにしていく。
- ・今回の番組内容に関して、楽曲単位で音楽を聞いている傾向が今の音楽ユーザーには多い中で、改めてアルバムというフォーマットをしっかりと伝えていきたいという音楽チャンネルとしての思いから制作に至った経緯となっている。
- ・番組自体は放送後にアーティストのオフィシャルYouTubeで期間限定公開する施策を行った。メディアミックス等、放送だけではリーチできない層に対しての施策は今後も考えていきたい。

・審議機関の答申、又は改善意見に対してとった措置、その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和7年9月29日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申、又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和7年9月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。